

授業内容：基礎分野〔7単位〕

	授業科目	単位(時間)	目標	内容	設定理由	教授方法	評価方法
科学的思考の基盤	論理的思考	1(15)	人間のものの見方・考え方について学び、自己の考えを整理し表現する能力と物事を客観的に評価できる能力を養う。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 論理的思考とは 2. 文章構成法 3. レポートの書き方 4. 原稿用紙の使い方 5. 研究の意義 6. 文献使用方法 7. 分析・解釈の方法 	相手の意見を正確に理解する能力と自分の意見を相手にわかるように主張する能力すなわち論理的な思考・表現力が必要となる。専門職として看護を実践・展開し研究を行っていく基礎的な能力としても重要である。	講義	テスト
	情報科学	1(15)	情報技術の進歩に伴い、情報伝達・処理・貯蔵などを理解することができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報科学とは 2. 情報管理 3. 情報化社会の課題 4. パソコン操作 5. ワード・エクセル 6. パワーポイント 7. 電子カルテ 8. 文献検索 	情報化社会において、情報処理の基本的な考え方、方法の理解は必須である。そのためコンピューター・統計処理の基本を学ぶ必要がある。	講義 演習	テスト
人間と生活・社会の理解	人間関係論	1(30)	自己を知り他者の心理を考え理解し、よりよい人間関係の基盤を作ることができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係の基本的意義 2. 社会的相互作用 3. コミュニケーションとは 4. チームワークとは 5. グループダイナミクスとは 6. リーダーシップとは 7. 体験学習(宿泊研修) 	人間関係を築くには、自己理解・他者理解が必要である。確立していくためにはコミュニケーション技術は必須である。	講義 演習	テスト
	家族関係論	1(15)	現代の家族の特徴や問題・その家族を取り囲む社会を理解することができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族とは 2. 夫婦関係 3. 親子関係 4. 家族と社会との関係 5. 現社会における諸問題 6. 家族支援アプローチ 	社会状況は、めまぐるしく変化しており、その中で暮らす家族関係や家族問題を知る必要がある。	講義	テスト
	英語	1(45)	日常生活や医療現場で使える基礎的な語学能力を養う。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学英語 2. 日常英会話 3. リスニング 	国際社会に対応できる英語の基礎的能力を身につけ、日常生活や医療現場で役立てる必要がある。	講義	テスト
	倫理	1(30)	生命そのものに対する尊厳、その人らしさを尊重し、専門職としての倫理観を形成できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命倫理 2. 臓器移植 	看護を行う上で何が倫理的に正しいのか、何を根拠に看護師としてすべきなのかを判断する意思	講義	テスト

			<ul style="list-style-type: none"> 3. 脳死問題 4. インフォームドコンセント 5. 医の倫理 6. 看護の倫理 7. 安楽死・尊厳死 	決定のための基礎的な知識が必要である。		
●カウンセリング論	1 (30)	カウンセリングに必要な知識・態度・技術を理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングとは 2. カウンセリング技法 3. 面接技法 4. 心理療法 	人間関係論で学習したコミュニケーション技術を活かしカウンセリングができる基礎的知識が必要である。	講義 演習	テスト
総計	7 (180)					

授業内容：専門基礎分野〔14単位〕

	授業科目	単位(時間)	目標	内容	設定理由	教授方法	評価方法
人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進	形態機能総論	1(30)	人体の構造と機能を理解することができる。	1. 解剖学とは 2. 生理学とは 3. 病理学とは 4. 人体の構造と機能	人体は様々な形態をもった器官が複雑に組み合わさって構成されている。この複雑な人体について一定の形態と機能を備えた器官を系統化して学習する必要がある。	講義	テスト
	形態機能演習	1(30)	形態機能総論で学んだ人体の構造と機能について各器官系統を統合し理解することができる。	1. 解剖演習 2. 解剖見学	形態機能総論で学んだ人体構造と機能を、統合し疾病論に活かす必要がある。	演習	テスト レポート
	疾病論Ⅰ	1(45)	脳神経、運動器、消化器の主要疾患の概念、病態生理、分類・疫学発症、原因、誘因、症状、経過、検査、診断、治療法、予後などについて理解し疾患の治療に伴う看護に発展させることができる。	1. 脳神経 2. 運動器 3. 消化器 4. 麻酔	疾患の原因・発生機序・経過・形態的・機能的変化について学び、科学的根拠に基づいた看護を展開する必要がある。	講義	テスト
	疾病論Ⅱ	1(30)	循環器、呼吸器、血液・造血器の疾患の概念、病態生理、分類・疫学発症、原因、誘因、症状、経過、検査、診断、治療法、予後などについて理解し疾患の治療に伴う看護に発展させることができる。	1. 循環器 2. 呼吸器 3. 血液・造血器	疾患の原因・発生機序・経過・形態的・機能的変化について学び、科学的根拠に基づいた看護を展開する必要がある。	講義	テスト
	疾病論Ⅲ	1(30)	女性生殖器、内分泌・代謝、アレルギー、膠原病の主要疾患の概念、病態生理、分類・疫学発症、原因、誘因、症状、経過、検査、診断、治療法、予後などについて理解し疾患の治療に伴う看護に発展させることができる。	1. 女性生殖器 2. 内分泌・代謝 3. アレルギー・膠原病	疾患の原因・発生機序・経過・形態的・機能的変化について学び、科学的根拠に基づいた看護を展開する必要がある。	講義	テスト
	疾病論Ⅳ	1(30)	腎・泌尿器、感覚器の主要疾患の概念、病態生理、分類・疫学発症、原因、誘因、症状、経過、検査、診断、治療法、予後などについて理解し疾患の治療に伴う看護に発展させることができる。	1. 腎・泌尿器 2. 感覚器	疾患の原因・発生機序・経過・形態的・機能的変化について学び、科学的根拠に基づいた看護を展開する必要がある。	講義	テスト
	●薬理学	1(30)	薬物が生体の機能に及ぼす作用、副作用について学び、重要な治療法の一つである薬物療法について理解することができる。	1. 薬物とは 2. 薬物の作用 3. 薬物の人体への影響 4. 薬物管理 5. 各器官系統作用薬 6. 救急時使用薬 7. 漢方薬 8. 診断用薬物	薬理作用及び人体への影響について学び、治療効果の観察を行うとともに、有害作用を早期に発見し対応できる能力と薬物の管理について理解する必要がある。	講義	テスト
	栄養学	1(30)	栄養の意義・栄養素の種類、体内での役割と代謝と疾患・治療と食事の関連について理解することができる。	1. 栄養とは 2. 栄養状態アセスメント	人間が発達・成長し、健康な生活を営むために必要な栄養の理解と対象に応じた効果的な食事指	講義	テスト

				<ul style="list-style-type: none"> 3. 栄養素の種類と働き 4. 代謝・消化・吸収 5. 治療食 6. 食事指導 	導が行えるための知識が必要である。		
	●リハビリテーション論	1(15)	リハビリテーションの理念・歴史の変遷を学び、機能障害の回復改善を図る方法を理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの定義と理念 2. 機能障害の評価方法 3. 機能回復訓練方法 4. リハビリテーションの課題 	高齢化社会の中、早期離床など機能回復の重要性を学び、訓練方法について理解する必要がある。	講義 演習	テスト
	免疫感染症	1(15)	人体に生理的・物理的に関連する微生物をとりあげ、免疫・感染に関する基本的な知識について理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 1. 微生物 2. 細菌・真菌・原虫・ウイルス 3. 各感染症 4. DNA 5. 免疫学 	感染経路の多様化、感染症の増加など変貌してきている中、微生物についての基礎知識・感染と発病・感染症の予防と治療についての知識が必要である。	講義	テスト
	総計	10(285)					
健康 支 援 と 社 会 保 障 制 度	関係法規Ⅰ	1(15)	各法規の基礎を学び、看護をしていくために必要な基礎的知識が習得することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 1. 法規とは 2. 医師法 3. 医療法 4. 薬事法 5. 予防衛生法規 6. 労働基準法 	医療従事者として国民の健康を守り、与えられた職責を正しく遂行するために学ぶ必要がある。	講義	テスト
	関係法規Ⅱ	1(15)	看護活動に深く関わる法規を学び、看護師の責任・義務について理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 1. 診療報酬 2. 保健師助産師看護師法 3. 個人情報保護法 	看護活動をする中で、深く関わる法規を学び、職責の重要性を理解する必要がある。	講義	テスト
	●社会保障Ⅰ	1(30)	社会保障の概念・変遷・法制度について理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 1. 社会保障とは 2. 社会保障の歴史と課題 3. 法制度 4. 各保険制度 5. 各年金制度 	社会状況の変化や国民生活が複雑になってきているため、さまざまな社会保障制度を学ぶ必要がある。	講義	テスト
	社会保障Ⅱ	1(15)	社会福祉の分野、社会資源の活用方法に必要な知識を学び援助方法について理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 1. 地域福祉社会福祉の実際 2. ライフサイクルと社会福祉 3. ノーマライゼーション 	社会保障Ⅰで学んだことを活かし、医療・保障との関連、医療サービス・支援の中で看護が果たす役割を学ぶ必要がある。	講義	テスト
	総計	4(75)					

授業内容：専門分野 I

	授業科目	単位(時間)	目標	内容	設定理由	教授方法	評価方法
専門分野 I	看護学概論	1(30)	看護の概念を学び、看護の目的を関連づけて理解し、あらゆる健康レベルの対象への働きかけ、個別性の重視、実践科学としての看護を理解することができる。専門職意識と研究的態度を身につけることができる。看護観を形成するプロセスを学ぶことができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の概念 2. 看護の変遷 3. 看護の目的 4. 看護の対象 5. 看護ケアの基本的役割 6. 医療と看護 7. 看護理論 8. 看護研究とは 	看護の概念や本質を理解し、看護の対象・役割・機能を学び看護の目的を理解する必要がある。専門職として、あらゆる方向から探求していく研究的態度を習得する必要がある。	講義	テスト
	基礎看護学 I	1(45)	看護の対象を総合的にとらえるために必要な観察の方法とアセスメント能力を習得することができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 観察とは 2. 医療コミュニケーション 3. 記録・報告 4. フィジカルアセスメント 	看護の基本となる観察技術は必須である。五感を使ってアセスメントし異常の早期発見が必要である。また、それらを記録・報告する重要性を理解する必要がある。	講義 演習	テスト
	基礎看護学 II	1(45)	看護の対象を安全・安楽に援助するための知識を身につけることができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染予防 2. 安全・安楽 3. 医療機器 	看護の基本となる安全・安楽を守る技術は必須であり、それらを理解した上で基礎看護学 III・IV を履修していく必要がある。	講義 演習	テスト
	基礎看護学 III	1(45)	日常生活における対象のニーズを把握し、ニーズに応じた援助方法を理解することができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境 2. 活動・運動 3. 清潔 4. 食事・栄養 5. 排泄 6. 休息・睡眠 	看護は生活している人間を対象としており、その健康問題に関わっていくため、日常生活に対する援助は看護者の重要な役割である。対象の基本的ニーズを充足するためには、日常生活を整えるための基本的援助技術の方法について理解しておく必要がある。	講義 演習	テスト
	基礎看護学 IV	1(45)	診断・治療の意義・目的を理解し、治療を受ける患者の援助を習得することができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検査時の援助 2. 与薬時の援助 3. 創傷処置 	診察・検査・治療に看護者も関わるため、それらの知識の理解と技術を習得する必要がある。	講義 演習	テスト
	基礎看護学 V	1(45)	事例に沿った看護過程を展開することで、科学的思考プロセスを理解することができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程 2. 事例展開 	看護過程を学び、事例を通し展開を行うことで、科学的根拠に基づいて問題解決技法を身につける必要がある。	講義 演習	テスト 演習記録
	総計		6(255)				

授業内容：専門分野Ⅱ

	授業科目	単位(時間)	目標	内容	設定理由	教授方法	評価方法
専門分野Ⅱ	成人看護学概論	1(15)	ライフサイクルからみた成人期の特徴、発達段階を学び、成人期の健康に及ぼす要因、健康を保持増進するための看護を理解することができる。 成人看護の目的を理解し、対象に応じた看護理論及び方法を理解することができる。	1. 成人期の特徴 2. 成人の生活と健康 3. 成人看護アプローチの基本 4. 成人の健康問題 5. 成人看護の対象 (急性期、慢性期、回復期、終末期)	成人期は、多様な価値観・生活を持ち、社会的役割も大きい時期にある。その対象を総合的に理解するためには、成人各期の身体的・精神的・社会的特徴と発達段階をふまえて理解する必要がある。 また、疾病構造の変化に伴い成人保健の現状や問題を知り、看護の必要性を理解する必要がある。	講義	テスト
	成人看護学Ⅰ	1(45)	成人期の特徴・発達段階を踏まえ、各健康レベルにある対象の特徴、障害の状態に応じた看護について理解することができる。 健康障害をもつ対象の問題と特徴を踏まえ、症状・検査・治療に応じた看護の方法を理解することができる。	1. 健康障害をもつ対象の看護 (循環器、消化器、運動器) 2. 周手術期看護	急激的に展開をする対象の問題を捉え、生命維持に向けての看護の援助方法や回復していく段階にある対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解する必要がある。また社会復帰を目指した援助方法そして慢性的に経過している対象の心身の反応、家族への影響を理解し、社会生活に適応していくための看護の特徴について学ぶ必要がある。 健康障害をもつ対象の看護の特徴・援助方法について学ぶ必要がある。	講義	テスト
	成人看護学Ⅱ	1(45)	健康障害をもつ対象の問題と特徴を踏まえ、症状・検査・治療に応じた看護の方法を理解することができる。 健康障害の状態に応じた看護が展開できる。	1. 健康障害をもつ対象の看護 (脳神経・呼吸器・血液、内分泌・栄養代謝・腎泌尿器・生殖器・感覚器) 2. 事例展開	健康障害をもつ対象の看護の特徴・援助方法を学ぶ必要がある。	講義 演習	テスト
	老年看護学概論	1(30)	老年期にある対象の身体的・精神的・社会的変化を知り、老年期の健康課題を理解することができる。 社会構造の変化や高齢化に伴う高齢者の保健・医療・福祉の問題に対する理解を深めることができる。 老化に伴う高齢者の健康状態の理解を深め、老年看護の機能と役割を理解することができる。	1. 老年期の特徴 2. 老年看護の特徴 3. 高齢者の生活 4. 高齢者の医療・福祉	高齢化社会において、老年期の特徴を知り、社会に生きる高齢者の生活や取り巻く医療・福祉制度を理解する必要がある。	講義	テスト
	老年看護学Ⅰ	1(30)	老化と疾病・障害の程度に応じた老年看護の実践の必要性和援助方法を理解することができる。	1. 日常生活の援助 2. 老年期に起こる健康障害 3. 健康障害に対する看護	老年期の特徴を学んだ上で、高齢者のアセスメントと日常生活における援助方法を理解する必要がある。老年期に起こりやすい健康障害の特徴を学び、健康の維持・増進を図るために必要な看護方法を理解する必要がある。	講義	テスト

老年看護学Ⅱ	1(30)	介護が必要な高齢者の援助方法が理解できる。 老化による身体的変化の疑似体験から援助のあり方を考えることができる。 事例に沿った看護過程の展開ができる。	1. 介護が必要な高齢者の看護 2. 事例展開 3. 高齢者疑似体験	健康障害をもち介護が必要な高齢者とその家族への援助方法を理解する必要がある。 疑似体験することで、老化に伴う生活障害を体験し、知識と統合して援助のあり方を考える機会とする。	講義 演習	テスト
小児看護学概論	1(15)	発達的一般法則を知り、小児を支える家族や社会に対する関心を高め、看護者としての支援のあり方を考えることができる。	1. 小児看護の理念 2. 子どもの権利 3. 小児の成長・発達 4. 小児の安全・事故防止 5. 小児のフィジカルアセスメント 4. 小児の保健	健康な小児の特徴を理解し、社会の変化に伴う育児上の問題など小児を取り巻く環境について認識し、社会の中の小児と小児看護の現状を理解する必要がある。	講義 演習	テスト
小児看護学Ⅰ	1(30)	小児に特有な疾患を理解することができる。	1. 健康障害の治療と検査 染色体異常、先天異常・新生児疾患・代謝性疾患・内分泌疾患・免疫、アレルギー、リウマチ性疾患・感染症・呼吸器疾患・循環器疾患・消化器疾患・血液疾患・悪性新生物・腎、泌尿器疾患・神経疾患	小児の健康障害は好発年齢、原因により多様な特徴があり、子供はその病態の中で生活し、看護の方向はそこから導かれるため、健康障害の特徴や病態を理解する必要がある。	講義	テスト
小児看護学Ⅱ	1(45)	小児が疾病や障害を受けることによる成長・発達に対する影響と、その家族の不安や日常生活の変化に対する支援について学ぶことができる。 疾病や障害をもった小児とその家族の外来や病棟での看護の実際と長期的及び社会的支援を必要とする小児と家族について学ぶことができる。	1. 小児看護の現在 2. 生活と看護支援 3. 看護・検査・処置をうける小児の看護 4. 急性期看護 5. 特有疾患の看護 6. 事故・外傷時の看護 7. 虐待と看護 8. 未熟児の看護 9. 障害児の看護 10. 精神疾患と看護 11. 事例展開	健康障害のある小児の回復、適応への援助技術を理解するとともに、健康障害の特性に応じた看護を行うため各症状に伴う援助方法を理解する必要がある。	講義 演習	小テスト テスト 出席態度
母性看護学概論	1(15)	母性看護の概念及び健全な母性への準備の看護を学び、母性・父性の望ましいあり方を理解する。 母性の特徴と女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する健康について学び、母性を取り巻く社会の現状問題（出産・育児）、生命倫理について母性を守る保健・医療・福祉の視野から学ぶことができる。	1. 母性看護の概念 2. 母性看護の変遷と現状 3. 母性看護の対象理解 4. 母性看護に必要な看護技術 5. 女性のライフステージ各期における看護 6. リプロダクティブヘルスケア	生命倫理に関する問題に直面する機会もあり得るので、その考えを理解する必要がある。 母性や父性に対する正しい理解が必要であり、また母性看護のあり方を認識することが重要である。 母性看護の沿革・動向を理解し母性看護に携わる職種との協働の必要性を理解した上で基礎的な	講義	出席態度 レポート テスト

				看護・技術・指導方法を理解する必要がある。		
母性看護学Ⅰ	1(30)	妊娠・分娩・産褥期の正常な経過と新生児の特徴を学び看護を理解する。 妊娠・分娩・産褥期及び新生児期の異常の予防とその対処法を学ぶことができる。	1. 母性の発揮を促す看護 2. 正常な妊娠期・分娩期・産褥期の経過と特徴 3. 異常な妊娠期・分娩期・産褥期の経過と特徴 4. 新生児期における正常及び異常	妊娠期・分娩期・産褥期は女性の一生の中で身体的・心理的・社会的に大きな変化を遂げる時期である。また小児期から芽生えた母性が高まる時期でもある。その時期に起こる変化・特徴を知り、看護に結びつける必要がある。	講義	出席態度 レポート テスト
母性看護学Ⅱ	1(45)	妊娠・分娩・産褥期及び新生児について、正常と正常からの逸脱を識別するための判断能力を養い、母性及び新生児の生理的变化が順調な経過をたどるための看護の方法を理解することができる。 新生児と母親・家族関係の望ましいあり方について学ぶことができる。	1. 正常な妊婦・産婦・褥婦・新生児のアセスメントと看護 2. 異常な妊婦・産婦・褥婦・新生児のアセスメントと看護 3. 新生児期における正常及び異常時のアセスメントと看護 4. 妊婦体験 5. 事例展開	母性看護学Ⅰで学んだ妊娠期・分娩期・産褥期の変化・特徴をふまえ、科学的根拠に基づいた観察法・健康管理などの看護を学ぶ必要がある。 新生児は、胎内生活から胎外生活へ移行し、あらゆる器官・機能が著明に変化する。新生児が胎外生活にうまく適応するため、新生児の特性と看護の原則を学ぶ必要がある。	講義 演習	出席態度 レポート小 テスト テスト
精神看護学概論	1(30)	人間のこころの健康とはたらきを理解することができる。	1. 精神看護学の位置付けとその課題 2. 心の健康 3. 心のはたらき 4. 家族と心 5. グループ関係	人間のライフサイクルにおいて精神看護は関わっていかねばならない。そのための基礎的な知識として人間の心の発達や、心の健康の増進・回復について理解することは重要である。	講義 演習	テスト
精神看護学Ⅰ	1(30)	精神障害の特徴・検査・治療について理解することができる。精神医療・看護の変遷と課題を学習し、それらを取り巻く法制度について理解することができる。	1. 精神症状の特徴 2. 精神疾患の特徴 3. 検査・治療 4. 精神医療・看護の変遷 5. 精神看護に関わる法制度	ストレスの多い現代社会において心の健康問題は重要であり、精神医療・看護の変遷・法制度を学んだ上で、その特徴・症状・治療を理解する必要がある。	講義	テスト
精神看護学Ⅱ	1(45)	さまざまな精神状態の対象に対しての看護を学び、入院時・地域における援助方法を理解することができる。精神看護の看護過程を学び、自己洞察の必要性が理解することができる。	1. アセスメント 2. 患者－看護師関係 3. 看護ケアにおける連携 4. 入院中の看護 5. 治療時の看護 6. 地域の精神看護 7. リエゾン精神看護 8. コミュニティにおける精神保健 9. プロセスレコード 10. 事例展開	あらゆる精神の健康レベルにある人の看護を展開していく上で必要となる知識を学ぶ必要がある。	講義 演習	テスト
総計	15(480)					

授業内容：統合分野

	授業科目	単位(時間)	目標	内容	設定理由	教授方法	評価方法
統合分野	在宅看護概論	1(15)	在宅看護の概念や変遷、および地域ケアシステムについて学習し、在宅ケアにおける看護職の役割を理解することができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の概念 2. 在宅療養者と家族の支援 	めまぐるしく変化する社会状況や制度の下、在宅で療養する人々の家庭環境を理解し、多様な在宅看護の役割を学ぶ必要がある。	講義	テスト
	在宅看護論Ⅰ	1(30)	訪問看護、地域包括支援センターの機能について学習し、そこにおける看護の機能とそのプロセス、およびケアマネジメントと関連職種との連携の必要性を理解することができる。 在宅療養者を支える制度と社会資源について学習し、社会資源活用における看護師の役割を理解することができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養を支える看護 2. 在宅ケアの連携とマネジメント 3. 在宅ケアを支える制度と社会資源 	各看護学の知識と技術を統合させ、人間の生活の場である地域・在宅での看護を考える必要がある。 保健・医療・福祉のシステムを知り、マネジメントの考え方を学ぶ必要がある。	講義	テスト
	在宅看護論Ⅱ	1(45)	事例を通して、在宅におけるアセスメントと状態に応じた看護の実際を学習し、在宅看護の実践に即した知識・技術・態度を習得することができる。 訪問看護における看護過程の特徴を理解することができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の援助の実際 2. 事例展開 	在宅看護の対象は幅広い。それを取り巻く地域システムは複雑化しており、支援技術も多様化している。そのため様々な事例・演習を通し生活の場で生活に適した援助方法の実際を学ぶ必要がある。	講義 演習	テスト
	●看護管理	1(15)	看護管理の対象と組織・マネジメントについて理解することができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理とは 2. 病院の看護管理 3. 看護業務管理 4. 組織の理解 5. 看護管理のスキル 	安全な看護ケアを行うためには、看護管理は必須であり、看護業務の効率や効果・リーダーシップなどを学び、看護マネジメントを考える必要がある。	講義	テスト
	●国際・災害看護	1(30)	災害時の人々の健康に及ぼす影響と障害を学習し看護の役割と看護活動の実際について理解することができる。 世界の人々の健康の現状と問題について理解を深め、国際協力のあり方や異文化の看護について学ぶことができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害とは 2. 災害時の看護 3. 国際看護 4. 異文化の看護 	災害は突発的に起こるため、災害時に起こる健康障害や環境変化を知り、その場面での看護の役割・実際を学ぶ必要がある。 国際社会である現代を考え、諸外国での看護や世界における協力体制を学ぶ必要がある。	講義 演習	テスト
	医療安全	1(30)	事故発生メカニズムや医療安全対策を理解することができる。 看護における事故防止策の方法を理解することができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国の医療安全施策 2. 事故発生メカニズム 3. 医療機関の安全対策 4. 医療事故後の対応 5. 看護業務における危険と防止策 	日々進歩する医療の中で、看護技術も進歩し複雑化している。その中で命を守るという重要な役割を担っているため、事故を起こさないための対策を学び理解する必要がある。	講義 演習	テスト

統合臨床看護	1 (30)	さまざまな臨床の場面での必要な技術・看護を理解することができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合技術演習 2. 看護技術総合評価 	各看護学で学んだ看護をふまえ実際の様々な臨床場面での看護を学び、看護技術の統合を図る必要がある。	講義 演習	テスト
総計	7 (195)					